

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。


○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひだまり
(ユニット名)	りんどう
所在地 (県・市町村名)	三重県三重郡菰野町
記入者名 (管理者)	佐伯 純子
記入日	平成 19年 5月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域へ積極的に出かけたり、以前より交流のあった人達が入りやすいように心掛けている。以前より利用していた理美容店、歯科、飲食店等の継続利用にも配慮している。</p>	<p>○</p> <p>近隣の人達との交流、これまで利用してきた地域のサービスを引き続き利用する等、住み慣れた地域で暮らし続けていくという理念を今後も利用者・職員で共有していく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を共有し、日々の実践に取り入れているが、利用者・職員がより具体的に理解し、実践していけるよう、両者で話し合い、スローガンを考え、日々見易い場所に掲示している。</p>	<p>○</p> <p>今後も常に理念を共有していけるように理解しやすいスローガンを目につき易い所へ掲示していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービスとなった趣旨を説明し、その結果、家族や地域の人々の訪問が多くなった。また、地域においてお互いに横のつながりもあり、何人かの人が和やかに談笑されている場面がよく見られるようになった。</p>	<p>○</p> <p>より多くの人に入浴していただき、在宅の時と変わることのない生活が継続できるよう今後も取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>スーパーの人とも顔なじみである。お茶や米は個人商店から購入、配達してもらっている。隣の託児所の子供たちの訪問もあり和やかに交流している。「また、お立ち寄り下さいね」という言葉を掛けるよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>住宅地から離れているが、車でスーパーへ買い物に来た折にも気軽に立ち寄りいただくようお願いしている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>会員として自治会に入れていただいている。地域の行事にはできるだけ参加している。社協の足湯にも出かけ、地元の人とも交流するよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も孤立することなく、地域の活動に積極的に参加し、地元の人々と交流していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当施設として、利用者以外の高齢者の暮らしについて話し合うことはないが、職員の個人的な活動として、障害者等のボランティアとして取り組んでいる。	○	事業所や職員の介護技術をより向上させ、地域でも役立つ情報を交換し合い、積極的に支援していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の両評価を生かし、改善に取り組んでいる。	○	昨年提案いただいたスローガン作りも利用者、職員全員で考え作った。研修の機会も多くしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、現在、行政やボランティア、家族に対し、説明および参加へのお願いをし、準備中である。	○	2ヶ月に一度継続的に行っていきけるか確信が持てないため、まだ開催には至っていないが、取り組んでいかなければと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から訪庁の機会を多く作るよう心掛けている。福祉モニターの来所もお願いし、実施している。	○	これからもいろいろと相談しながら、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習し、必要な人があった場合にはそれらが活用できるようにしている。	○	資料作成等を行い、これからも学ぶ機会を持つようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことと、共通の認識を持つようにしている。もしそのような傾向が見られれば、見過ごすことのないよう防止に努めている。	○	虐待については資料を基に学習を行い、地域における虐待も見過ごすことのないよう、予防と防止に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>後になって分からない点が出てくる場合もあるので、気安く尋ねられる雰囲気作りをし、利用者や家族の不安や疑問には丁寧に答えていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>今後も利用者の言葉や心を傾聴し、利用者の側に立って考える運営を心掛けていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>利用者の諸々の様子は今後も細かく報告していく予定である。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族等とは積極的に会話の機会を持ち、何でも言える雰囲気を今後も作っていく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>常勤職員もパート職員も同等の立場で意見交換ができる現在の会議のやり方を継続させていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>状況の変化や、個々の要望の発生は常に起こり得ることであり、それに対応するため、余裕ある現在の人員配置を維持していく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>今後も職員の交代は最小限に留める努力をしていきたい。変わる場合にはダメージを防ぐ配慮をしていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修や内部職員研修を行っている。また、外部研修の受講機会を設けたり、伝達講習を行ったりして、資質の向上に努めている。	<input type="radio"/> 今後もできるだけ多くの学ぶ機会を作っていく、また、介護現場におけるトレーニングも行っていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは機会は少ないが時々情報交換等を行っている。三重県グループホーム連絡協議会に入会し、交流や勉強会の機会を持っているが、相互訪問等には至っていない。	<input type="radio"/> 同業者との交流は県グループホーム連絡協議会や地域の事業者会議を通してのことが多い。交流の機会を多く持つよう心掛けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	外食やピクニック等を利用者とともに楽しみ、意欲的に介護に取り組めるよう支援している。また、会話の機会を持ち、早めにストレスを軽減するよう配慮している。法人全体として、職員旅行や忘年会を実施している。	<input type="radio"/> 職員が常に明るく仕事ができるよう、今後も一人一人に配慮していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現在の自分に満足することなく、謙虚に自分を見つめなおし、次のステップに進めるよう、励ましや応援することを心掛けている。	<input type="radio"/> 今後も各自が個々の能力に応じて向上していけるよう支援していく。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には訪問したり、ホーム見学に来ていただき、本人の思いをよく聞き、受け止めるようにしている。	<input type="radio"/> 本人が安心して移り住むことができるよう、入居前に信頼関係を作る努力を継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、申し込みに来所された折には、十分時間をとり、家族等の思いを傾聴し、受け止めている。	<input type="radio"/> 本人、家族等共に、安心して入居に対応できるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話聞き、今、何を必要としているのかを見極め、他のサービスの利用についても説明することがある	○	今後も本人や家族の話から、今、何が必要かを見極め、他のサービス利用も含めた説明を行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自家への外泊、家族のホームでの寝泊り等。個々に応じ、徐々にホームに馴染める工夫を、本人・家族と相談しながら行っている。	○	本人の気持ちを大切に、また、家族も納得できる方法を十分に話し合い、スムーズにホームの生活へ移行できるよう、今後も努めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の何気ない会話の中から、本人の思いや、どうして暮らしたいか、不安はないか、などをとらえて、一人ひとりの個性を大切にしながらその人らしく暮らせるように支援している。利用者の今までの生活や経験から日々の生活のなかでもアドバイスをもらう機会が多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の歴史やこだわりなどいろいろな情報を聞かせてもらい、違和感なく暮らせるように家族の意向も尊重し、共に支えていけるような関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には食事、おやつにも参加してもらい、また散歩、外食への同行、行事にも参加できる機会をつくり、よりよい関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣住民や知人、友人等が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように支援している。また、以前から行きつけの美容院への定期的な利用等、今までの生活スタイルや習慣を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい利用者同士が楽しく過ごせるよう配慮したり、閉じこもりがちの方にはさりげない声かけをして、交流の機会をできるだけ多く作り、リーダー的存在の人には力が発揮できるような場面をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内の老人保健施設へ移られた方の家族が、現状の報告も兼ねて立ち寄ってくださった。	○	家族から何か相談のあった場合は、共に考えていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの興味のあることや得意なこと、人生のよい思い出となっている頃のこと等職員間で情報を共有し合い、その人らしさが出せる暮らしになるよう支援している。また、その都度、本人の希望や要望を聞き、意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の了解をとって、家族や知人、友人に本人の生活歴、ライフスタイル、価値観等を聞かせてもらい把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムや習慣を大切にしている。また、一日のうちで、できるだけ本人が活躍できる場を提供し、生き生きと生活できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度、ミーティングを開催し、本人や家族との日々の親密な関わりをもとに得られた情報を交換しながら、その人らしい生活ができることを基本にして計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな問題・課題が生じた場合は、本人や家族の意向を取り入れて、随時に再検討、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌には本人との会話やエピソードを交え、気づきや状態の変化など職員間で情報を共有している。仕事に入る前には、必ず日誌には目を通すことを義務づけている。また、その都度の状況を整理し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在はグループホームの運営のみである。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの来訪が時々ある。消防は防災訓練、火災通報装置の点検、救急車の要請等で協力してもらっている。	○	今後も地域資源の協力をうけながら支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他の介護サービスを利用する場合、介護保険の適用ができないので行っていないが、本人の意向や必要性があったときは話し合っていきたい。	○	必要に応じて他のサービスも併用することは考えていかなければならない課題だが、介護保険が適用されない現制度で、実施は困難である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性が生じてきた場合はセンターと協働していく意向である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医での受診を支援している。また、協力病院とも連携しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	○	今後もかかりつけ医との関係を築きながら適切な医療が受けられるよう支援していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今後も利用者一人一人に応じたより良い終末期の迎え方を、事業所とかかりつけ医で連携をとりながら支援に取り組んでいきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような事柄であれば、人前で実施するのではなく、声かけをして、場所を移動してもらい、本人が傷つかないような言葉や態度に気をつけながら、さりげなく支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一日の生活の中で本人が決定する場面を作っている。お茶や食事、嗜好、レク、入浴等本人のその日の心身の状態も含めて希望を尊重して生活している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの主張や意見を尊重して体調に配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替え時は見守りを基本として、鏡の前に立っていただき、身だしなみを整えられるようにさりげなく支援している。また、理美容は希望を聞いて、以前からの馴染みの店で行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りには利用者にも参加していただいている。調理、盛り付け、片付けも利用者と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握して対応している。希望があれば、お酒やお菓子など一緒に買い物に出かけて購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄の状況、状態を把握してトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、ゆったりとくつろいだ気分で入浴していただけるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握して、夜間徘徊のある方には昼間の活動を活発にして、昼夜逆転にならないように支援している。		
に				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なこと、できることなど、一人ひとりの力を十分発揮できるように支援している。(食器洗い、坐りながらの洗濯干し、掃除、調理、園芸など)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は自分で行っている。能力に応じて買い物に行くときに財布を渡す等、各人の力量を考慮して支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、欲しい物の買い物、外食などその日の希望に対応できるよう取り組んでいる。また、気兼ねなく希望が言えるような雰囲気づくりを心がけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	不定期ではあるが、飲食店のモーニングサービスなどの外食、ドライブ、地区の踊り講習会などに出かけている。また、定期には、月に一度は『お出かけ日』を利用者と共に計画し旅行気分を味わっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は電話中には席を外すなど、プライバシーに配慮しながら、自由に使えるようにしている。荷物や手紙などは居室へお届けしている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつ来訪いただいても歓迎している(ご家族の都合で夜間遅くの場合もある)。時には一緒に食事やおやつにも参加していただいている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所初期からミーティングを開催し(月1回)身体拘束を行わないことを職員に徹底している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りがある時は施錠を行わないよう努めているが、帰宅願望の強い方もおられるのでやむを得ず玄関を施錠する場合もあるが、家族、利用者の了解を得ている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式の台所であるため、一人ひとりが見渡せるようになっている。また、現在の様子を常に把握することを職員に周知している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の包丁などは保管場所を決め、夜間は更に扉に鍵がかかるようになっている。洗剤、薬等は目につかない場所に保管し、管理方法を職員に周知徹底している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態への対応策のマニュアル(手順)を作成しており、それに沿って対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>予想される急変や事故に対する心掛けを、今後も職員全てが日常的に確認しあっていく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>法人で行う防災訓練には、職員と利用者が毎年参加している。大規模な災害に備え、緊急時のための水や食料、日用品の確保をしている。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	○	<p>一人ひとりの状態に応じて、家族と話し合い、リスクを説明した上で、本人の持つ力を最大限発揮できる環境を整えるよう努力している。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>普段と違った顔色、表情、食事量等些細な変化にも注意し、バイタルチェックを行っている。職員間で情報を共有して対応にあたっている。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>処方箋をファイルし、職員全員が内容を把握できるようにしている。服用に際しては見守りを基本にし、声かけによって確実に服用されたか確認している。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>おやつにバナナやヨーグルトを取り入れ、十分に水分を摂っていただいている。また、天気の良い日はできる限りの戸外への散歩を促している。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>口腔ケアを行い、必要に応じて歯科医の往診を受けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特にチェックの必要な利用者には、食事量や水分量等、摂取状況をチェック表に記録して職員間で情報を共有している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成している。発生時には実行する予定である。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板は必要に応じ消毒、除菌し、ふきんについては一度使用する毎に消毒、除菌している。冷蔵、冷凍庫は毎日点検し新鮮で安全な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは明るい木製で統一し、誰もが気軽に訪問できるような雰囲気づくりに配慮している。ベンチやプランターなど季節の花を植えて、明るい玄関になるようにしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、食堂の設備や食器、家電類は家庭用の物を用い、また、食事の用意が一緒にできたり、香りが漂い、心が和む雰囲気づくりをしている。床の間には掛け軸、季節の生け花、絵画を飾る等、家庭的な雰囲気づくりをしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下のソファ、玄関のベンチ等で、一人または気の合った利用者同士で自由に過ごせるよう、また縁側やソファでのひなたぼっこや昼寝等、気軽に過ごせる場所づくりをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活で起こる利用者の方の焦燥感・喪失感・無理解感・怒りなどの感情や徘徊・せん妄・攻撃的な行為・周りを困らせるような言動などに対して、私たち職員は、「認知症という病気をケアする」というのではなく、「認知症のために生活のあらゆる場面において、さまざまな障害や困難に直面している高齢者をケアする」という共通した認識が大切であると考えている。そして、日常生活において、「いま、ここで」最善・最適と考えられる支援をめざし、また、その支援の評価を出すのは、利用者の方であるということを常に職員間で確認し合っている。これからも、認知症高齢者をよく理解し、利用者の方の人格を尊重して、その人らしさをどう支えるかという視点を見失わずに支援していきたい。